

2023年度
1年生 前期シラバス
(看護学科)

実の力を、学ぶ学校



学校法人
日翔学園

高知開成専門学校

<シラバス>

授業科目	教育学	授業方法	講義	単位	1単位
開講時期	1年次前期	担当教員	横山 卓	実務経験のある教員	—
学習目的	「教育学」は、看護師養成課程の「基礎分野」のうちの1科目である。「基礎分野」の目的は「科学的思考の基盤」を形成すること、「人間と生活・社会の理解」を深めることにあり、「教育学」もこの目的の達成に資する必要がある。「教育学」とは、教育現象を研究対象とする学問を指す。本授業では、日常生活の中で経験される最も身近な教育現象である“人間の社会的発達過程”に焦点を当てて、その基本的事項を学習するとともに、それをめぐる現代的な諸問題について考察する。このことにより、「科学的思考の基盤」の形成、「人間と生活・社会の理解」の深化に資したいと考える。				
学習目標	①社会化(教育)の概念について説明できる ②社会集団における社会化(教育)過程について説明できる ③社会化(教育)をめぐる現代的諸問題について説明できる				
授業計画	1	本授業の目的・内容・方法, 社会化という概念(野生児の事例から)			
	2	社会化と教育, 個人の主体性			
	3	家族集団と社会化(T.パーソンズの社会化論の枠組み)			
	4	家族集団と社会化(T.パーソンズの社会化論の内容)			
	5	現代の家族集団の諸問題(父親不在, 母子癒着, 育児不安)			
	6	家族という概念(生殖ビジネスの最先端)			
	7	仲間集団と社会化(仲間と仲間集団)			
	8	仲間集団と社会化(他人性の経験と規範意識の形成)			
	9	現代の仲間集団(サンマの減少)／隣人集団と社会化(プライヴァタイゼーション)			
	10	学校の基礎・基本(学校の種類, 体系, 特質, 就学義務)			
	11	学校集団と社会化(学習指導要領の変遷)			
	12	学校教育の実際(いかに働きかけるか)			
	13	いじめ・不登校現象について考える			
	14	メディアと教育			
	15	小テスト(持込不可, 全2問に記述で答える)			
授業方法	①板書もしくはPowerPointデータを表示しながら, 講義形式で進めていく ②なお, 板書やPowerPointデータの内容を記した資料は配付しない ③したがって, 各自ルーズリーフ等を準備し, 必要に応じて記録(メモをとる)すること ④本授業ではたびたび発問する。聞くではなく「考える」というスタンスで授業に臨むこと ⑤教科書は, 各自で予習・復習に用いること ⑥毎回授業終了時に「大福帳」に考えたことを記し提出すること				
テキスト・参考文献	テキスト 住田正樹・高島秀樹編著『変動社会と子どもの発達 改訂版』北樹出版2018				
評価方法	以下2つの側面からの評価を総合して判定する ①「大福帳」記入内容:50% ②小テストでの得点 :50%				
履修上の注意事項					

<シラバス>

科目区分	基礎分野	科目名	心理学とコミュニケーション	単位	1単位
開講時期	1年次前期	担当教員	福住 紀明	実務経験のある教員	—
学習目的	心理学におけるコミュニケーションは、他者とのかかわりあい全般を包括的に含む概念である。そこで本講義では、こころのメカニズムを理解しながら、人はどのように学び、発達し、他者との関係性、また良好なコミュニケーションの基礎となる知識を習得することを目的とする。				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 心理学的視点から、こころを科学的に捉えることができる ・ 他者との関わりの中でみられる人間の行動についてを理解することができる ・ 円滑なコミュニケーションを促進する諸要因について理解することができる 				
授業計画	1	心理学とは			
	2	発達①自我同一性			
	3	発達②ピアジェの理論			
	4	発達③道徳性			
	5	認知			
	6	記憶			
	7	学習			
	8	知能			
	9	動機づけ			
	10	パーソナリティ			
	11	集団			
	12	感情			
	13	コミュニケーション			
	14	発達障害			
	15	まとめ・試験			
授業方法	パワーポイントを用いた授業を行う。グループワークも行う。				
テキスト・参考文献	【テキスト】 なし 【参考文献】 授業中に適宜紹介する				
評価方法	授業への参加とレポートにより、総合的に評価する。				
履修上の注意事項					

<シラバス>

科目区分	基礎分野	科目名	英語	単位	1単位
開講時期	1年次前期	担当教員	片田 一義	実務経験のある教員	—
学習目的	1. 4領域における基本的な英語力を身につける。 2. 看護系学生として求められる英語力を養成する。				
学習目標	1. 医療・看護系のトピックに関する英文を読む能力を身につける。 2. 医療現場等で使用される英語表現や語彙に習熟する。 3. 実践的な英語能力を身につける。				
授 業 計 画	1	Chapter 1 Welcoming a Patient			
	2	Chapter 2 Taking Vital Sign			
	3	Chapter 3 Pain Assessment			
	4	Chapter 4 Feeling So Sick			
	5	Chapter 5 Transferring a Patient			
	6	Chapter 6 Medical Department			
	7	Chapter 7 Review & Medical Terminology			
	8	Chapter 8 Personal Care			
	9	Chapter 9 Giving Medication to a Patient			
	10	Chapter 10 Elimination (Bowel movement / Urination)			
	11	Chapter 11 Chronic Diseases			
	12	Chapter 12 Critical Care / Operating Room			
	13	Chapter 13 Pregnancy Check-up			
	14	まとめ・試験			
	15				
授業方法	1. 講義形式(40%) 2. 学習者主体の活動(60%)				
テキスト・参考文献	Talking with Your Patients in English (SEIBIDO)				
評価方法	出席状況・前期末テスト・授業態度・小テスト・提出物・その他				
履修上の注意事項	・予習、復習をすること ・授業に積極的に参加すること				

<シラバス>

科目区分	基礎分野	科目名	国語表現法	単位	1単位
開講時期	1年次前期	担当教員	公文 素子	実務経験のある教員	—
学習目的	社会人として必要な日本語力を身につけ、自分の意見や考えを相手に「説得力」を持って伝えるために必要な考え方や文章の書き方、発表方法を学ぶ。				
学習目標	1. 基本的な国語技法の振り返りと誤用表現を学び正しい日本語が使える。 2. 他者の意見に対して、信頼性と妥当性の担保された根拠をもとに自分の意見を述べることができる。 3. 話者の意図を理解したコミュニケーションができる能力を習得する。 4. 説得力のある文章を書くための書き方やポイントがわかる。 5. 評論文として適切な構成に基づき、自分の考えを述べるができる。				
授業計画	1	オリエンテーション、マッピング			
	2	漢字(同音異義語、同訓異字、漢字の誤り、漢字の読み・書き違い)			
	3	漢字(同音異義語、同訓異字、漢字の誤り、漢字の読み・書き違い)			
	4	句読点と見やすい表記			
	5	句読点と見やすい表記			
	6	見やすい表記と分かち書き			
	7	見やすい表記と分かち書き			
	8	接続詞、結論を先に述べる			
	9	結論を先に述べる 発表			
	10	敬語①			
	11	敬語②			
	12	評論文作成演習			
	13	評論文作成演習			
	14	評論文作成演習			
	15	まとめ・試験			
授業方法	講義、演習				
テキスト・参考文献	特になし、講師が資料準備 <参考文献> 1. 5段階エッセイ指導で日本の子どもが変わる、松本輝彦、リーブル出版 2. 大学生のための日本語トレーニング(ドリル編)阿部朋世編 三省堂				
評価方法	試験50%、課題提出20%、発表10%、授業態度10%、出欠状況10%				
履修上の注意事項	積極的参加と課題にしっかり取り組むこと				

<シラバス>

科目区分	専門基礎分野	科目名	人体の構造 I	開講時期	1年次前期
担当教員名	森木 章人	単位数	1単位(30時間)	実務経験のある教員	—
学習目的	人体の正常な形態とその形成過程および機能的意義について、系統的に理解する。				
学習目標	人体の発生過程と構造を系統的に理解することができる。				
授 業 計 画	1	人体の構造と機能について			
	2	人体の構造と機能について			
	3	解剖学を学ぶための基礎知識			
	4	解剖学を学ぶための基礎知識			
	5	解剖学を学ぶための基礎知識			
	6	身体の支持と運動			
	7	身体の支持と運動			
	8	情報の受容と処理			
	9	情報の受容と処理			
	10	血液の循環とその調節			
	11	血液の循環とその調節			
	12	血液の循環とその調節			
	13	体表からみた人体の構造			
	14	体表からみた人体の構造			
	15	まとめ・試験			
授業方法	講義、毎時授業振り返り小試験実施				
テキスト・参考文献	人体の構造と機能(1) 解剖生理学 医学書院(電子テキスト)				
評価方法	出席状況、筆記試験				
履修上の注意事項					

<シラバス>

科目区分	専門基礎分野	科目名	人体の構造Ⅱ	開講時期	1年次前期
担当教員名	森木 章人	単位数	1単位(30時間)	実務経験のある教員	—
学習目的	人体の正常な形態とその形成過程および機能的意義について、系統的に理解する。				
学習目標	人体の形態と機能を系統的に理解することができる。				
授 業 計 画	1	解剖学を学ぶための基礎知識			
	2	解剖学を学ぶための基礎知識			
	3	呼吸と血液のはたらき			
	4	呼吸と血液のはたらき			
	5	呼吸と血液のはたらき			
	6	栄養の消化と吸収			
	7	栄養の消化と吸収			
	8	内臓機能の調節			
	9	内臓機能の調節			
	10	内臓機能の調節			
	11	生殖・発生と老化のしくみ			
	12	生殖・発生と老化のしくみ			
	13	体液の調節と尿の生成			
	14	体液の調節と尿の生成			
	15	まとめ・試験			
授業方法	講義、毎時授業振り返り小試験実施				
テキスト・参考文献	人体の構造と機能(1) 解剖生理学 医学書院(電子テキスト)				
評価方法	出席状況、筆記試験				
履修上の注意事項					

<シラバス>

科目区分	専門基礎分野	科目名	生化学	開講時期	1年次前期
担当教員名	宇田幸司 / 吾妻 健	単位数	1単位(30時間)	実務経験のある教員	—
学習目的	生体の構成成分を化学的に理解し、その化学変化によって、生命が成り立っていることを学ぶ。				
学習目標	1、人体を作る細胞を理解し構成成分を知る。 2、物質の代謝活動を知り、同化、異化作用について理解する。 3、体内の化学物質の動態と疾病の関係が理解できる。				
授 業 計 画	1	生化学を学ぶための化学の基礎と栄養素の構造			
	2	生命維持に必要な栄養素の構造と性質 —糖類、脂質—			
	3	生命維持に必要な栄養素の構造と性質 —アミノ酸とたんぱく質—			
	4	生命維持に必要な栄養素の構造と性質 —脂溶性ビタミン—			
	5	生命維持に必要な栄養素の構造と性質 —水溶性ビタミン—			
	6	酵素			
	7	糖質代謝			
	8	脂質代謝			
	9	たんぱく質とアミノ酸代謝			
	10	エネルギー代謝の統合と制御			
	11	核酸とヌクレオチドの代謝			
	12	遺伝情報1。DNAの構造、複製、修復			
	13	遺伝情報2。DNAからRNAへの転写			
	14	遺伝情報3。RNAからタンパク質への翻訳_遺伝暗号			
	15	遺伝子診断_遺伝子治療と先天性代謝異常_がん遺伝子			
授業方法	教科書を中心に、パワーポイントや資料などを使って、授業する。				
テキスト・参考文献	系統看護学講座 人体の構造と機能2 生化学 : 医学書院(電子テキスト)				
評価方法	テストの点数と授業態度				
履修上の注意事項	復習予習をしておくこと。				

<シラバス>

科目区分	専門基礎分野	科目名	薬理学	開講時期	1年前期
担当教員名	沖本 朝子	単位数	1単位(30時間)	実務経験のある教員	—
学習目的	薬物を用いた疾病の治療とその効果や副作用について理解し、薬物を投与した際の管理や観察における基本的な知識と姿勢について習得する。				
学習目標	1. 代表的な薬物について、その作用機序を生体の構造・機能と関連させて理解する。 2. 薬物が生体に及ぼす影響を理解し、実際の臨床現場で使用する際の注意点について理解する。 3. 個々の患者の状態に合わせた薬物療法の基本的な考え方を習得する。				
授業計画	1	薬理学を学ぶにあたっての概論			
	2	薬理学の基礎知識			
	3	抗感染症薬			
	4	抗がん薬			
	5	免疫治療薬			
	6	抗アレルギー薬・抗炎症薬			
	7	抹消での神経活動に作用する薬物			
	8	中枢神経系に作用する薬物			
	9	心臓・血管系に作用する薬物			
	10	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物			
	11	物質代謝に作用する薬物			
	12	皮膚科用薬・眼科用薬			
	13	救急の際に使用される薬物、漢方薬、消毒薬			
	14	輸液製剤・輸血、看護業務に必要な薬の知識			
	15	まとめ、試験			
授業方法	講義、演習				
テキスト・参考文献	疾病の成り立ちと回復の促進(3) 薬理学 医学書院(電子テキスト)				
評価方法	出席状況、筆記試験				
履修上の注意事項					

<シラバス>

科目区分	専門基礎分野	科目名	疾病治療論 I	開講時期	1年次前期
担当教員名	谷木 利勝／戸梶美香	単位数	1単位(30時間)	実務経験のある教員	○
学習目的	系統別疾患について、臓器系特有の症状をとらえ病態生理、治療、検査について学習し、疾病の成り立ちや症状を理解する。				
学習目標	看護実践の基礎知識となる呼吸器系疾患・消化器系疾患・感覚器系の病態生理・検査・治療方法が理解でき、看護について説明できる。				
授 業 計 画	1	呼吸器の構造と機能			
	2	呼吸器疾患で生じる主な症状・検査・治療			
	3	呼吸器疾患で生じる主な症状・検査・治療			
	4	主な呼吸器疾患の診療と治療(COPD、気管支喘息、換気とガス交換の障害など)			
	5	主な呼吸器疾患の診療と治療(気管支疾患、肺炎など)			
	6	主な呼吸器疾患の診療と治療(肺腫瘍、縦隔疾患など)			
	7	消化器の構造と機能、消化器系疾患の症状と病態生理			谷木
	8	消化器系疾患の症状と病態生理			
	9	消化器系疾患で生じる主な診察・検査・治療法			
	10	消化器系疾患で生じる主な診察・検査・治療法			
	11	消化器系の疾患と診療、治療			
	12	消化器系の疾患と診療、治療			
	13	感覚器系(眼、耳鼻咽喉)の主な疾患と看護			戸梶
	14	感覚器系(眼、耳鼻咽喉)の主な疾患と看護			
	15	まとめ・試験			
	16				
授業方法	講義				
テキスト・参考文献	成人看護学(2)呼吸器 医学書院(電子テキスト) 成人看護学(5)消化器 医学書院(電子テキスト) 成人看護学(13)(14) 医学書院(電子テキスト)				
評価方法	出席状況、授業参加状況、筆記試験				
履修上の注意事項					

<シラバス>

科目区分	専門分野	科目名	看護学総論	開講時期	1年次前期
担当教員名	大沢 たか子	単位数	1単位(30時間)	実務経験のある教員	○
学習目的	1. 看護専門分野を学ぶ入門と位置付け、看護の源流を振り返り、看護学の発達と看護の近代化や社会化に貢献した看護の諸理論の概要を学ぶ。 2. 看護全般の概要をとらえ、看護の本質や看護の位置づけと役割の重要性を学ぶ。				
学習目標	1. 看護の考え方の変遷を社会的変化との関連でたどり、現代の看護の考え方と看護学の発展段階を知り、看護の本質看護の定義、目的について理解することができる。 2. 看護の対象である人間と環境とを生活統合体として捉え、看護の対象は全ての健康レベルの人とその家族であることを理解することができる。 3. 代表的な健康の定義や概念を知り、健康が全人的な生活概念であることを理解することができる。 4. 看護と法律との関係性を知り、保健医療チームにおける看護の機能、役割について理解することができる。 5. 看護を取り巻く社会的な動向、看護専門職についての認識を深め、看護の将来を考えることができる。				
授業計画	1	「看護」って何だろう、看護を学び始めるにあたって			
	2	看護の歴史の変遷と現状			
	3	看護の定義と主要概念			
	4	ナイチンゲールのいう看護「看護覚書」から－1－			
	5	ナイチンゲールのいう看護「看護覚書」から－2－			
	6	ナイチンゲールのいう看護「看護覚書」から－3－			
	7	ナイチンゲールのいう看護「看護覚書」から－4－			
	8	ナイチンゲールのいう看護「看護覚書」から－5－			
	9	看護の対象についての理解「看護の対象である人間とはどのような存在か説明できる－			
	10	看護の対象についての理解「看護の対象である人間とはどのような存在か説明できる－			
	11	健康と生活の関連			
	12	看護提供の仕組みとキャリア			
	13	看護機能の役割、看護実践と質保証に必要なこと			
	14	看護実践における倫理的問題への取り組み			
	15	まとめ、試験			
授業方法	講義・演習(GW)				
テキスト・参考文献	基礎看護学(1)「看護学概論」医学書院(電子テキスト),「看護覚え書き」メヂカルフレンド社				
評価方法	出席状況、授業態度、筆記試験、課題レポート				
履修上の注意事項	教科書を用いて予習・復習をして授業内容の理解を深めること				

<シラバス>

科目区分	専門分野	科目名	看護と倫理	開講時期	1年次前期
担当教員名	松本 佳代	単位数	1単位(15時間)	実務経験のある教員	○
学習目的	保健医療福祉現場における看護職者が直面する倫理的課題とはどのようなことかを理解し、その課題分析の検討に必要な倫理的原則や看護実践における基本的姿勢や態度を学ぶ。また、人間に対する深い理解と倫理観を養うと共に、人々が抱く喜びや悲しみ、痛みや苦しみを共感できる感性を育成する。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理とはなにかについて理解し、学ぶことの意義を述べることができる。。 2. 看護倫理問題やジレンマの特徴、解決のための方法を説明できる。 3. 看護師に求められている倫理的責任と倫理的基準について説明できる。 4. 看護活動と倫理とのかかわりについての課題を検討し、発表できる。 				
授 業 計 画	1	生命倫理と看護倫理の歴史的変遷			
	2	倫理とは何か			
	3	患者の権利と看護			
	4	看護者の倫理綱領・看護師の責務			
	5	医療体制の変革と倫理的課題			
	6	グループ学習の成果発表と討議			
	7	臨地実習での看護倫理			
	8	まとめ、試験			
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
授業方法	講義・演習				
テキスト・参考文献	別巻 看護倫理 医学書院(電子テキスト)				
評価方法	筆記試験・課題レポート・出席状況				
履修上の注意事項					

<シラバス>

科目区分	専門分野(基礎看護学)	科目名	看護援助論 I	開講時期	1年次前期
担当教員名	大沢たか子／戸梶美香／ 小笠原須奈子	単位数	1単位(30 時間)	実務経験のある教員	○
学習目的	1. 看護が人間の健康保持・増進をめざす実践活動であることを確認し、個々の対象に対する看護が理解できるための基礎的知識・技術・態度を学ぶ。 2. 身体的状態を客観的に観察する技術として、身体測定とバイタルサイン測定の意義と方法を学ぶ。 3. 対象の基本的ニーズを満たすための個別性のある援助の必要性和、対象にとってより望ましい状態へ調整できる援助を学ぶ。				
到達目標	1. 対象の身体的状態を客観的に観察する技術と意義と方法を学ぶ。 2. 人間の基本的ニーズに影響を及ぼす要因と対象に必要な看護の方法を説明できる。 3. 人間の基本的ニーズを満たす援助に必要とされる態度を学ぶ。 4. 看護活動にともなう危険を認識した上で、患者の安全性を守り事故を未然に防止するために必要な知識、技術を学ぶ。 5. 活動の意義と活動時の身体のしくみを理解し、その知識に基づき援助する方法を学ぶ。 6. 生活上での休息の意味を理解し、援助方法を学ぶ。 7. 人間にとっての食事・栄養の意義と基礎的知識について理解し、患者の栄養状態のアセスメントができる。 8. 排泄のメカニズム及び影響要因を理解する。 9. 排泄の意義、重要性を理解し、アセスメントできる				
授 業 計 画	1	看護技術とは何か。看護技術の特徴、実践するための要素			
	2	環境を整える技術		戸梶	
	3	環境を整える援助			
	4	身体診察技術(バイタルサイン測定)		大沢	
	5	身体診察技術(バイタルサイン測定)			
	6	基本的活動の基礎知識(体位、ポディションングの基礎知識)			
	7	基本的活動の基礎知識(体位変換、ポディションング、移動、移乗、移送の基礎知識)		小笠原	
	8	睡眠と休息の援助 援助の基礎知識			
	9	人間にとっての食事・栄養補給の意味と基本的知識、体内での食物の流れと栄養分のゆくえ			
	10	栄養と食事に関するアセスメントができ、対象の状態に応じた食事援助・口腔ケア方法の選択		戸梶	
	11	摂食嚥下機能(口腔・咽頭・食道・胃に達するまでの過程)摂食障害 経口的な食事摂取が困難な患者への経管栄養法の選択と目的、援助方法、注意事項			
	12	人間の排尿・排便の意義とメカニズム・排泄に関するアセスメント方法			
	13	対象者の状態に応じた排泄援助方法			
	14	自然な排泄(排尿・排便)を促すケア方法や薬物使用による排便方法		小笠原	
	15	胃・腸・膀胱洗浄のための看護			
授業方法	講義、看護技術のDVD視聴				
テキスト・参考文献	基礎看護学(2) 基礎看護技術 I 医学書院(電子テキスト) 基礎看護学(3) 基礎看護技術 II 医学書院(電子テキスト)				
評価方法	出席状況、授業態度、レポート、試験				
履修上の注意事項					

<シラバス>

科目区分	専門分野(基礎看護学)	科目名	看護援助論Ⅱ	開講時期	1年次前期
担当教員名	松本佳代／山本佳子／ 前田和美	単位数	1単位(30時間)	実務経験のある教員	○
学習目的	1. 看護が人間の健康の保持、増進をめざす、実践活動であることを確認し、個々の対象に対する看護が理解できるための基本的知識、技術、態度を学ぶ。 2. 対象の基本的ニーズを満たすための個性のある援助の必要性と、対象にとってより望ましい状態へ調整できる看護援助を学ぶ。また学内実習を通し、それぞれの援助について根拠を考え、実施する。				
到達目標	1. 人間のコミュニケーションは相互作用であること、対人関係における効果的コミュニケーションについて学ぶ。 2. 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションの特徴について学ぶ。 3. 身体の清潔と衣生活の意義を理解について学ぶ。 4. 感染予防について知識・技術を学ぶ。 5. 呼吸を整えるための基礎的知識が理解できる。				
授業計画	1	コミュニケーションの意義と目的			
	2	関係構築のためのコミュニケーションの基本1			松本佳
	3	関係構築のためのコミュニケーションの基本2			
	4	コミュニケーション障害への対応			
	5	衣生活の援助			
	6	身だしなみの援助			前田
	7	清潔援助の基礎知識			
	8	全身清拭と更衣			
	9	標準予防策			
	10	標準予防策			
	11	無菌操作			
	12	呼吸の意義としくみと呼吸に影響を及ぼす要因、アセスメント方法の理解			山本
	13	呼吸を整えるための援助技術(肺痰法、体位ドレナージ、一時的な吸引など)			
	14	呼吸を整える看護(酸素吸入、薬剤吸入法)			
	15	人工呼吸器療法の基礎知識と援助			
授業方法	講義				
テキスト・参考文献	基礎看護学(2) 基礎看護技術Ⅰ 医学書院(電子テキスト) 基礎看護学(3) 基礎看護技術Ⅱ 医学書院(電子テキスト)				
評価方法	授業態度、課題レポート、試験				

<シラバス>

科目区分	専門分野(基礎看護学)	科目名	生活援助技術 I	開講時期	1年次前期
担当教員名	大沢たか子／戸梶美香／ 小笠原須奈子	単位数	1単位(30 時間)	実務経験のある教員	○
学習目的	1. 看護が人間の健康保持・増進をめざす実践活動であることを確認し、個々の対象に対する看護が理解できるための基礎的知識・技術・態度を学ぶ。 2. 身体的状態を客観的に観察する技術として、身体測定とバイタルサイン測定の意義と方法を学ぶ。 3. 対象の基本的ニーズを満たすための個別性のある援助の必要性と、対象にとってより望ましい状態へ調整できる援助を学ぶ。				
到達目標	1. 対象者のニーズに応じた療養環境を整える援助技術を学ぶ。 2. 対象の身体的状態を客観的に観察するに必要なバイタルサインの看護技術を学ぶ。 3. 活動の意義と活動時の身体のしくみを理解し患者の安全性を守り、事故を未然に防止するために必要な移動の看護技術を学ぶ。 4. 対象の状態に応じた食事・栄養の援助方法と口腔ケアの方法を学ぶ。 5. 排泄の基本的ニーズに応じた援助の重要性を理解し、状態に応じた看護技術を学ぶ。 6. 生活上での休息の意味を理解し、援助方法を学ぶ。 7. 身体の清潔援助に必要な看護技術を学ぶ。				
授 業 計 画	1	環境を整える技術演習			
	2	環境を整える技術演習			戸梶
	3	身体診察技術演習			
	4	身体診察技術演習			
	5	身体診察技術演習			大沢
	6	身体診察技術演習			
	7	基本的活動の基礎看護技術演習(体位保持、体位変換、移動、移乗、移送)			
	8	基本的活動の基礎看護技術演習(体位保持、体位変換、移動、移乗、移送)			小笠原
	9	睡眠と休息の援助 援助技術の実際			
	10	臥床(寝たきり)患者の食事介助方法の選択と援助 / 口腔ケア実践			
	11	臥床(寝たきり)患者の食事介助方法の選択と援助 / 口腔ケア実践			戸梶
	12	臥床(寝たきり)患者の便器、尿器の使い方			
	13	臥床(寝たきり)患者のオムツ交換方法			
	14	片麻痺(車椅子離床中)の患者のポータブルトイレ排泄援助			小笠原
	15	ストーマ交換			
授業方法	演習				
テキスト・参考文献	基礎看護学(2) 基礎看護技術 I 医学書院 I (電子テキスト) 基礎看護学(3) 基礎看護技術 II 医学書院 II (電子テキスト)				
評価方法	演習態度、出席状況、レポート				
履修上の注意事項	演習授業前に課題レポートあり				

<シラバス>

科目区分	専門分野(基礎看護学)	科目名	生活援助技術Ⅱ	開講時期	1年次前期
担当教員名	松本佳代／山本佳子／ 前田和美	単位数	1単位(30時間)	実務経験のある教員	○
学習目的	1. 看護が人間の健康保持・増進をめざす実践活動であることを確認し、個々の対象に対する看護が理解できるための基礎的知識・技術・態度を学ぶ。 2. 身体的状態を客観的に観察する技術として、身体測定とバイタルサイン測定の意義と方法を学ぶ。 3. 対象の基本的ニーズを満たすための個別性のある援助の必要性和、対象にとってより望ましい状態へ調整できる援助を学ぶ。				
到達目標	1. 身体の清潔と衣生活の看護技術を学ぶ。 2. 無菌操作及び感染予防についての看護技術を学ぶ。 3. 呼吸を整えるための基礎的知識が理解できる。 4. 酸素吸入療法、薬液吸入療法の方法を学ぶ。 5. コミュニケーション技術について学ぶ。				
授 業 計 画	1	全身清拭と更衣			
	2	全身清拭と更衣			
	3	洗髪			前田
	4	洗髪			
	5	足浴・手浴			
	6	足浴・手浴			
	7	呼吸を整えるための援助技術(安楽な呼吸法の選択)			
	8	呼吸を整えるための援助技術(酸素吸入療法)			
	9	呼吸を整えるための援助技術(排痰法、体位ドレナージ)			
	10	呼吸を整えるための援助技術(一時的吸引)			山本
	11	標準感染予防策に基づく手洗い、個人防護具の装着脱法			
	12	標準感染予防策に基づく手洗い、個人防護具の装着脱法			
	13	無菌操作			
	14	コミュニケーション演習			
	15	コミュニケーション演習			松本佳
授業方法	演習				
テキスト・参考文献	基礎看護学(2) 基礎看護技術Ⅰ 医学書院(電子テキスト) 基礎看護学(3) 基礎看護技術Ⅱ 医学書院(電子テキスト)				
評価方法	演習態度、出席状況、レポート				
履修上の注意事項	演習授業前にレポート課題あり				

<シラバス>

科目区分	専門分野	科目名	成人看護学総論	開講時期	1年次前期
担当教員名	松本 佳代	単位数	1単位(15時間)	実務経験のある教員	○
学習目的	1. 成人保健の動向及び成人期にある対象を理解し、成人看護の特徴を理解できる。 2. 成人期の健康に影響を及ぼす生活習慣病について理解し、健康の保持増進や保健・医療・福祉政策から保健対策を概括的に理解できる。				
学習目標	1. 成人看護学の概要及び看護の対象理解に向け、発達理論の観点から健康課題が理解できる。 2. 成人期の各期発達段階にある健康問題と予防対策が理解できる。 3. 成人保健の動向を理解し、健康の保持増進や保健・医療・福祉対策を理解できる。 4. 成人看護の基礎となる理論の概要と看護者の役割を理解できる。				
授業計画	1	成人期の対象と成人各期の発達段階から見た発達課題と発達理論			
	2	成人各期の健康問題と成人を取り巻く社会環境と生活			
	3	成人保健の動向と課題			
	4	保健・医療・福祉政策			
	5	生活習慣病と予防対策及び健康の保持増進、ヘルスプロモーション			
	6	労働者の保健問題の動向と対策			
	7	成人学習者の特性と看護アプローチに必要な理論			
	8	まとめ・試験			
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
授業方法	講義と課題検討				
テキスト・参考文献	成人看護学(1) 成人看護学総論 医学書院(電子テキスト)				
評価方法	試験、授業態度、出席状況、レポート				
履修上の注意事項	授業の資料は事前に自己学習しておくこと				

<シラバス>

科目区分	専門分野	科目名	慢性期看護論	開講時期	1年次前期
担当教員名	松本 佳代	単位数	1単位(30時間)	実務経験のある教員	○
学習目的	慢性状況にあり、生涯にわたりコントロールを必要とする対象者の特徴を理解し、慢性期看護の考え方および基盤となる理論について学ぶ。 慢性的経過をたどる疾患を理解し、対象者が病とともに生き、生活の中でコントロールしていくために必要な看護の役割と方法について学ぶ。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性期の特性、慢性期看護の考え方が理解できる。 2. 慢性状況にある人とその家族の特徴を理解する。 3. 慢性期看護を考える基盤となる理論を理解する。 4. 生涯にわたってコントロールするためのセルフマネジメントについて理解し、看護援助について考えることができる。 5. 慢性的経過をたどる疾患を理解し、病とともに生きる人の看護について考えることができる。 				
授業計画	1	慢性状況の特性			
	2	慢性期看護の考え方			
	3	慢性状況にある対象と家族の特徴と理解			
	4	慢性疾患と治療の特徴			
	5	慢性期看護で用いられる理論			
	6	慢性期看護で用いられる理論			
	7	セルフマネジメントの基盤となる概念			
	8	セルフマネジメントを促すための支援			
	9	慢性の経過をたどる循環機能障害と看護			
	10	慢性の経過をたどる呼吸機能障害と看護			
	11	慢性の経過をたどる消化機能障害と看護			
	12	慢性の経過をたどる腎機能障害と看護			
	13	慢性の経過をたどる代謝機能障害と看護			
	14	慢性の経過をたどる運動・神経機能障害と看護			
	15	まとめ			
授業方法	講義				
テキスト・参考文献	成人看護学(1) 成人看護学総論 医学書院(電子テキスト) 講師が用意する資料				
評価方法	試験、授業態度、出席状況				
履修上の注意事項	授業の資料は事前に自己学習しておくこと				

<シラバス>

科目区分	専門分野	科目名	母性看護学総論 I	開講時期	1年次前期
担当教員名	北村 明子	単位数	1単位(15時間)	実務経験のある教員	—
学習目的	母性の概念および母性の特性や発達段階に応じた女性の健康と健康問題を通して、母性看護に必要な知識を学ぶ。母性看護の対象を女性だけでなく、子どもを産み育てるものとして広くとらえて、母性を取り巻く社会の現状と母子保健動向を知り、母性看護の役割について学ぶ。また、女性のライフサイクルの特徴を理解し、各期に必要な保健指導や対策を学ぶ。				
学習目標	1. 母性および父性の概念や特性、役割を理解する 2. 母性看護の対象を理解する 3. 母性看護における倫理的問題を理解し自ら考えることができる 4. セクシュアリティの概念を理解しその発達と健康課題について理解する 5. 日本の母子保健の動向、母子にかかわる法と政策について理解する				
授 業 計 画	1	母性とは、母性看護とは			
	2	母性看護における理論・概念(愛着 セクシュアリティ)			
	3	母性看護における理論・概念(リプロダクティブ・ヘルス/ライツ ヘルスプロモーション)			
	4	母性看護における倫理、母性看護における安全・事故防止			
	5	母子保健統計の動向			
	6	母性看護に関する組織と法律、母性看護の対象を取り巻く環境			
	7	女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化			
	8	まとめ、試験			
	授業方法	講義 グループワーク			
テキスト・参考文献	系統看護学講座 母性看護学1 母性看護学概論 :医学書院(電子テキスト)				
評価方法	出席状況 試験 レポート				
履修上の注意事項					

<シラバス>

科目区分	専門分野	科目名	基礎看護学実習 I	開講時期	1年次前期
担当教員名	専任教員	単位数	1単位(45時間)	実務経験のある教員	○
学習目的	1. 早期臨地実習の体験を通して、看護の魅力を発見し、看護学を学ぶ動機を明確にする。 2. 看護が実践されている場を通して、看護の対象と療養環境および看護の機能を理解する。				
学習目標	1. 臨床現場の中で看護職が活動する場を認識し、看護の特徴や役割・機能を具体的にイメージできる。 2. 看護の魅力を発見し、看護学を学ぶ動機を明確にする。 3. 対象の療養環境について、生活者の視点から理解できる。 4. 看護を実践する者として、基本的な実習態度を身につける。				
【実習内容・実習方法】 <実習時間 45時間> 事前学習 1 既習の学習内容を復習 2 各施設における看護と活動内容 3 各施設で働く職種と活動内容 4 看護の役割と看護活動の種類 5 各実習施設の場所、交通手段、特徴や機能、利用対象者などを調べ確認しておく 6 実習中に確認および質問したい内容について準備する 実習 1 各施設のオリエンテーションや見学を通して学ぶ ・沿革、基本理念、方針、地域・機能的特徴、組織体系、職種 ・看護部門の方針、目標、体制 ・各施設の患者状況(平均患者数、在院日数、年齢、背景、地域的特徴など) ・各施設の設備や構造と機能、安全対策 ・実習部署の概要、患者状況 2 患者の行動観察やコミュニケーションなどを通して学ぶ ・患者の状況の観察 ・患者とのコミュニケーションを通して、各施設の特徴や役割について学ぶ ・施設の設備、構造などを見学して、特徴や機能について対象者の立場に立って環境としての利点や欠点について考える ・看護師の行動観察やインタビュー、臨地指導者・スタッフと共に看護援助の見学や体験を通して学ぶ ・看護師の援助場面などを見学し、看護の魅力について気づきを得る ・臨地指導者やスタッフと共に援助を体験し、看護の魅力について気づきを得る ・看護師へのインタビューなどを通して、各施設の看護の特徴や役割について考える ・毎日カンファレンスを実施して、振り返りや学びを共有するとともに翌日の実習目標を明確にする 1日目:「1日を振り返って感じたこと、学んだこと、困ったことなど」 2日目以降:「看護師の役割、他の職種の役割、基本的な生活援助について、環境整備の意義、コミュニケーションについて、実習での学びや気づきなどについて」 臨地実習後の学内実習 1 基礎看護学実習(見学実習)のまとめにて各実習施設での学びを共有するグループワーク 看護者としてのコミュニケーション、療養環境が及ぼす影響 2 課題レポートの提出: 例「私が発見した看護の魅力と看護学を学ぶということ」「療養環境と患者について」					
授業方法	臨地実習(8月)				
参考文献	既習の学習時使用テキスト他				
評価方法	基礎看護学実習 I 評価表に基づく				
履修上の注意事項	臨地実習留意事項および実習要綱				